

和光大学 マイクロソフトオフィススペシャリストは 企業に対して、パソコンが使えることを伝える資格

一人ひとりの自由と意志を大切にする教育を掲げ、多くの個性豊かな人材を輩出している和光大学。同学では、就職活動支援の一環として、進路指導課の主催で Microsoft® Office Specialist の資格取得講座を開講しています。進路指導部 進路指導課 課長の佐藤延介さんに、導入の経緯や資格取得の意義などについてうかがいました。

資格取得が自信につながる

——就職支援活動の一環として

東京都町田市にある和光大学は、自由と個性の尊重をモットーとする教育方針で知られています。学生の自由意志を大切にし、各自の個性、能力、可能性を最大限に目覚めさせ、誰もが何かひとつでも自信を持てるものを培えるような場であることを目指しています。

他学部・他学科の授業科目も履修できる「大幅な科目選択の自由」は、そんな自由な校風を表す一例ですが、その他授業以外の部分でも、学生一人ひとりの学びのスタイルに対応した、個性を大切にするバックアップ体制が整えられています。

学内で受けられるさまざまな資格取得講座もそうした体制の一環で、正規の授業以外に、各学部や学科、部署が資格取得講座を開催して将来の道につなげる可能性としての資格取得を応援しています。

例えば、現在、進路指導課では、3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士と Microsoft Office Specialist (Word と Excel®) の資格取得講座を開いています。進路指導部 進路指導課の佐藤課長は、進路指導課が資格取得講座を実施する意義を次のように語ります。

「学生が自分に合った仕事を探すことをサポートするのが進路指導課の役割です。入学して2学年ぐらいまでは、自分の進みたい分野や職業を模索しながら数年後には社会に出る、仕事に就いていくということに対して、いまひとつピンときていない学生もいますので、そのような学生に対して、いかに社会人として活躍したいと思ってもらうか。そのために、さまざまなガイダンスを実施したり、個別相談を行ったりしています。

資格取得講座の開講は、そうした就職支援活動のひとつです。資格を取得すれば、それを

履歴書に書けるというメリットがありますが、それだけではなく、資格取得が学生自身の自信につながることも大きいと思っています。頑張った分だけ成果が出る。勉強したことが資格というかたちに残ることは自信につながりますし、資格取得によって体得した自信を、就職活動につなげていってほしいと考えています」

使えることを伝える資格

——就職活動時の“売り”のひとつとして

進路指導課では、目的意識を持って大学生生活を送ってもらうために、1年次から将来の進路を検討するための情報提供を積極的にを行い、学生からの相談に答えています。また、年3回の学内合同会社説明会をはじめ、職業適性検査、一般常識テスト、個別面談、就職体験報告会、面接対策講座など、自分の強み(長所)に気づけるような行事を多く開催し、一人ひとりの適切な進路選択をサポートしています。そのような体制を採っている進路指導課が、数ある資格のなかから Microsoft Office Specialist を選んだ理由について、佐藤課長は以下のように説明します。

「当校の正規授業のなかにはコンピュータに関する授業もあり、そうした授業を受けている学生であれば、Office製品の各アプリケーションを使いこなせる学生も多いと思います。また、そのような授業を受けていない学生であっても、レポートや卒論などでは Word や Excel を使いますし、先般も、進路指導課が学生と一緒に説明会に取り組みの機会がありましたが、学生のほうから、“説明会の資料を PowerPoint® で作ってもいいですか？”といった質問が挙がるなど、日頃の学生生活の

和光大学 <http://www.wako.ac.jp/>

所在地 東京都町田市金井町2160
学生数 3377人

現代人間学部(心理教育学科、現代社会学科、身体環境共生学科)、表現学部(総合文化学科、芸術学科)、経済経営学部(経済学科、経営メディア学科)の3学部7学科で構成。
2010年には、金井町キャンパス内に、情報関係の教室や食堂、コンベンションホールなどが入る新総合棟が完成予定。

なかで普通に使っていると思います。しかし、“使える”ということ自体はかたちとして残りません。Microsoft Office Specialistは、その実力を資格としてかたちに表せますし、履歴書に記載すれば他者に伝えることも可能です。

それと、WordやExcelは、多くの企業で使われていますので、就職活動に取り組む学生が、自分が取得した資格の“売り”のひとつとして採用応募時や面接の際に伝えることも可能です。先日も、実際に履歴書に書いたら、“そこを、多少なりとも評価された”と言ってきた学生もいました。そんな声を聞くと、こちらとしても嬉しくなりますね」

学内の慣れた環境で受講

—外部の専門講師がきめ細かく指導

Microsoft Office Specialistの講座は2006年の春に開始され、その後、2007年春、2008年の春と秋に開講されました。講座の告知については、ポスターの掲示やチラシの配布、進路指導課のウェブサイトでの掲載、ガイダンスなどで行っています。特に、就職活動が本格化する3年生に対しては、全学部の学生に、就職活動をはじめ前の段階で、さまざまなガイダンスや、ほかの資格取得講座の案内などと一緒にダイレクトメールが送付されます。

実際の講座の運営は、外部のパソコンスクールに委託し、資格試験を熟知している専門の講師が大学内で指導にあたっています。講座はWord、Excelそれぞれ4.5時間×5日間で行われ、各5回が終わった後にMicrosoft Office Specialistの試験会場になっているパソコンスクールで資格取得のための試験を受けるといふかたちを採っています。

このような運用方法について佐藤課長は、「学生にとっては、慣れた学内の環境で講座を受けられるという点が大きなメリットだと思います。また、Microsoft Office Specialistの学習方法に精通した専門の講師がきめ細かく対応してくれるので、“直接、教えてもらえてわかりやすい”と、参加した学生にも好評なようです。Word、Excelそれぞれの講座の最終回に受ける資格試験の前には、講師の方が開始時間よりも早めに来てフォローアップいただいているため、講座への出席率の高さはずもとより、講座終了後の学生の合格率はほぼ

100%です」と、学内での講座開設の利点について話します。

上記のような進路指導課の告知活動により、2008年の春のMicrosoft Office Specialist資格対策講座には、2006年と2007年に比べて倍以上の講座への申込みがあったとのこと。その際は、定員の関係で断らなければならない学生が出てしまったため、同年の秋にも講座を開講し、2008年度は、初めて前期と後期の年2回の開催となりました。こうした動向について佐藤課長は、

「Microsoft Office Specialistがどんな資格であるか、どういうふうな資格が活かせるのかということが学生に浸透しつつあるのではないかと思います。Microsoft Office Specialistという資格の需要は増えていると思いますので、今後も講座は続けていきたいですね」とのこと。

2009年以降もできれば年2回、春と秋にMicrosoft Office Specialist資格取得講座を開講していきたいという佐藤課長。そのためには、今まで以上に多くの学生に講座のことを知ってもらえるよう告知の方法も工夫していきたいと話します。和光大学では、企業が求める資格を手にし、自信を持って就職活動を進められる学生が、今後ますます増えることでしょう。



「サステイナブル」(持続可能性)をコンセプトに設計された新総合棟イメージ。2010年3月に完成予定